

会 議 録

1 会議名

令和5年度 上越市自殺予防対策連携会議専門部会（第2回）

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越市第2期自殺予防対策推進計画策定の素案について（公開）
- (2) その他（公開）

3 開催日時

令和5年10月18日（水）午後2時00分から

4 開催場所

上越市福祉交流プラザ 第一会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：13名中 12名出席

五十嵐 透子、宮崎 貴博、川室 優、山田 英理子、深澤 ますみ、
馬場 隆信、堀田 克己、竹内 義夫、富井 美穂、丸山 富一郎、
星野 悟史、牧井 創

・事務局：健康づくり推進課

田中健康福祉部参事、大瀧参事、柳澤統括保健師長
長嶺上席保健師長、今野保健師長、板垣主任、瀧澤主任
すこやかなくらし包括支援センター
川合副所長、長谷川主任

8 発言の内容

【開会】

- (1) あいさつ 田中健康福祉部参事
- (2) 議事
(事務局が、資料により説明)

【川室会長】

前回の専門部会の意見を踏まえ、事務局が自殺予防対策推進計画の素案を作成した。今回は上越市第2期自殺予防対策推進計画（案）について協議する。

【山田委員】

前回の専門部会の意見が十分に盛り込まれている。自殺の背景にアルコールが関係する場合があるため、飲酒について確認できるシートがあるとよい。

【川室会長】

自殺の原因・動機の内訳は健康問題が約3割、ほとんどが原因不詳であるが、アルコールの問題を抱えたケースも一定数含まれていると思う。うつ病や自殺の原因の一つにアルコールが関係しているが、計画の中で触れていない。中高年期でアルコール依存症も多いので、ライフステージ別の課題として記載するなど検討してほしい。

【富井委員】

自殺ハイリスク者への支援を推進するため、相談対応や自殺予防研修会を市と連携して実施している。市としても、相談しやすい窓口の周知を図ってほしい。保健所やいのちとこころの支援センターへ匿名での相談が増えており、希死念慮のほか生きづらさを相談するケースも増えている。

【川室会長】

自殺を予防するためには、早期に相談につなげ、対応することが大切である。相談内容も様々であるため、相談対応についてももう少し具体的に記載してはどうか。また、相談対応の中にアルコールの問題も含めてはどうか。

【深澤委員】

救急搬送されてきた自殺未遂者について、限られた入院期間で次の医療や相談機関へつなぐ難しさもある。事例検討会等で対応について検討し、必要な関係機関で連携した支援を実現していきたい。

【川室会長】

救急の現場において、自殺未遂者や再企図者が多いという実態がある。救急搬送後、精神科の受診を勧めても拒否することもあるため、精神科の受診につなげる工夫を皆で考えることも必要である。

【山田委員】

以前よりは減少したが、やはり精神科への受診を拒否する人はいる。受診ではなく、相

談員への相談から勧める等の工夫をしている。

【川室会長】

インターネット検索で情報を得て精神科を受診する人が多く、自殺予防対策も同様にインターネットを活用して周知することが必要と感じる。

【宮崎委員】

精神科の受診を勧めようと思う場面があるが、数年前まで精神科の医師不足により受診が難しいと聞いたことがある。現在の市内の精神科の受診のしやすさ等はどうか。

【川室会長】

多くの医療機関が予約制であり、緊急を要する場合には、すぐに医療機関に連絡してほしい。ただし、思春期外来は予約がとれる日が先になることもあるので、電話で状況をよく伝えてはどうか。

【星野委員】

高齢者の自殺予防のため、高齢者が集う場での啓発や見守り活動を引き続き継続する。高齢者の見守りネットワークを提携する事業所の拡充や、町内会、民生委員、地域包括支援センター等による地域における見守り活動の輪を広げていきたい。

【川室会長】

高齢者への支援として、地域における見守り活動を具体的に記載してはどうか。

【馬場委員】

民生委員として地域の見守りを行う際、地域支え合いマップ等を活用しながら実施している。町内会長や民生委員が一期で交代することも増え、地域の把握や継続した関わりが難しくなっている。相談対応の中で精神科の受診を提案することがあるが、精神科に抵抗を示す人もいる。精神科と心療内科との違いを教えてほしい。

【川室会長】

精神科と心療内科を線引きすることは難しいが、基本的には精神科の先生がクリニックを開業するときに心療内科を標榜している。

地域支え合いマップはどの部署が担当しているのか。

【堀田委員】

社会福祉協議会の地域福祉担当職員が中心となり、地域の関係者ととともに地域支え合いマップの作成を支援している。町内で知り得ている情報を掲載しているが、個人情報を知られたくない世帯もあるので取り扱いには注意している。

【川室会長】

8ページの推進体制に、社会福祉協議会を記載するか市の関係課で検討してはどうか。学校の子どもの状況はどうか。

【牧井委員】

学校で気になる子どもや相談があった子どもについては、教育委員会に報告があり、連携しながら対応している。前兆もなく突発的に行動を起こす子どもがおり、どのように把握するか難しい場面もあるが、思春期の子どもは皆ハイリスクと考え対応している。中には、自殺に関する報道の影響で不安定になる子どももいる。

【川室会長】

子どもの希死念慮は本当に見つけにくいし、社会の影響を受けやすい時期でもある。

【五十嵐委員】

子どもの不安定さにどのように気付き対応するか、現場の先生も不安を抱えていると思う。子どもに見られやすい身体症状等についてタブレットを活用し簡単な質問項目でスクリーニングを行い、早目に対応することはどうか。

【川室会長】

働き盛り世代の状況はどうか。

【丸山委員】

人手不足、非正規雇用の増加、外国人労働者の増加等、特にコロナ禍で働く環境が大きく変化したし、職場におけるコミュニケーション不足が大きな課題と感じる。短期間で課題も大きく変化しており、12年間という長い計画期間をどう捉えるか難しい。計画について数年単位の見直しも必要ではないかと思う。

【川室会長】

社会変化も大きく、様々な問題が浮き彫りになってくる中で、どのように自殺予防を行うか、今後も検討を続けたい。

【竹内委員】

自分も今までの暮らしの中で精神的に辛い時期があったが、自殺予防対策については知らなかった。地域でも自殺予防対策について認知度は高くないと感じており、周知が必要と感じる。民生委員の見守り活動についても周知が必要と感じる。

【川室会長】

今回の計画について、市民にどのように周知啓発を行うか検討することが大切である。

【五十嵐委員】

相談体制について、現在の計画には市内の相談機関一覧が掲載されていた。上越市の相談先をインターネット検索すると、市民相談センターが最初に表示される。インターネットで相談先にアクセスしやすいようにもう少し整備する必要があるのではないかと。

高齢者への支援については、取組の対象を活動的な高齢者への啓発、困り感を抱えながらも主体的に支援を求められない高齢者への支援、同居家族がいるがメンタル不調をきたす高齢者と3つに分けて検討する必要があるのではないかと。これは、働き盛り世代にも関係する。

【川室会長】

インターネット環境を考慮した対策は必要と感じる。高齢者への支援についても検討してほしい。

女性・妊産婦の対策についてはどうか。

【五十嵐委員】

既にエジンバラ産後うつ病質問票を活用し、積極的に対策に取り組み成果も出ているので、今後も継続してほしい。

ライフステージ別の課題や自殺実態に応じた対策の推進についての評価指標について、高齢者の指標についての記載がない理由を教えてください。

【長嶺上席保健師長】

地域で生きることの包括支援の推進の評価指標である市民向けメンタルヘルス講座の受講者数に高齢者も含めている。

【川室会長】

計画の基本的な方針は、「地域で生きることへの包括的な支援を推進する」、「自殺ハイリスク者への支援を推進する」、「ライフステージ別の課題や自殺実態に応じた対策を推進する」の3つである。本日の意見を整理し、より意義ある計画を作っていきたい。

【柳澤統括保健師長】

今後、パブリックコメントを経て、次回専門部会で最終案を示す。次回会議の開催日は2月7日を予定している。令和5年度上越市自殺予防対策連携会議専門部会を終了する。

9 問合せ先

健康福祉部健康づくり推進課健診・相談係 TEL : 025-520-5841

E-mail : kenkou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。